



たくさん泣いたりもしたけど、そのぶん強くなりました!帰る時は寂しさでたくさん泣きました。

【プログラム】

最初の2か月半は英語の授業と Service Learning (Stage 1) があり、2週間ほどの休みの後 Service Learning (Stage 2) が始まり、再度2週間ほどの休みの後 Service Learning (Stage 3) がありました。

英語の授業では、先生がとてもクリエイティブな方だったので、英語科教育法を学ぶ私にとっては、英語だけではなく、授業に関する事も一緒に学んでいけました。

Service Learning の Stage 1 では、アメリカの履歴書の書き方、ビジネスメールの書き方、面接など、アメリカで仕事をするために必要なことを学びました。

Stage 2 では、アメリカの文化やボランティアとは何かについて学びました。そして、自分のボランティア先を知るという目的でプレゼンテーションも行いました。授業日数は長くはありませんでしたが、学ぶことがたくさんありとても楽しかったです。

Stage 3 では実際にボランティア先で活動します。ボランティア先は2～3か所選ぶことができ、6週間で合計116時間のボラ

ンティアを行います。私は、International School、Playschool、High School でボランティアをしました。

【生活面】

ホームステイ先には、ホストマザーとサウジアラビア人のルームメイトと猫がいました。ホストマザーがベジタリアンだったので、最初は不安でしたが、最後はすっかり慣れて、マザーのご飯が大好きになっていました。マザーとルームメイトの3人で話をしたり、買い物に行ったり、料理をしたり、とても楽しかったです。

10月から6月までは雨期なので、そのせいか疲れやすかったり、気分が沈んだりしました。

【安全面】

治安はアメリカの中ではよい方かもしれませんが、日本と比べると怖いと感じる場面はよくありました。ホームレスからお金を要求されたり、マザーの車の窓が割られたこともありました。

【感想】

書ききれないほどの多くの経験をしてきました。留学の目標にしていた、英語力を伸ばすこと、挑戦すること、教育現場を見ること、全て達成できて心残りはありません。また、英語に関心を持ってもらい、異文化に理解がある子供を育てられる教員になるという新しい目標もできました。留学して強くなったので、きっとできると信じています。これからも挑戦を辞めることなく頑張っていきます。



この留学を通じて、自分らしく生きること、本当にしたいことをじっくりと考えることの大切さを学びました。

【プログラム】

18週間(4か月半)のプログラムに参加しました。

最初の10週間(1ターム)は、英語の授業とサービ斯拉ーニングの授業がありました。英語の授業は、Grammar、Reading、Writing、Listening & Speaking がありました。サービ斯拉ーニングの授業では、ボランティア先を決め、ボランティア先に送るカバーレターと履歴書を作成しました。ボランティア先は、迷ってしまうほど様々なジャンルがあったので、とてもワクワクしながら決めたのを覚えています。履歴書をボランティア先に送り、その後は面接を受けに行きました。面接を受けるためにボランティア先に向かっている時間が留学期間中で一番緊張していた瞬間でした。

最初の10週間が終わり、ここから2週間は完全にボランティアについての授業だけになります。ボランティアについて、日常会話のフレーズ、アメリカの文化について学び、自分がこれから行くボランティア先がどんなところなのかを発表したりもしました。

最後の6週間は、ついにボランティア活動です。基本的には、自分が決めた2つのボランティア先で1週間に20時間以上活動し、終了時に合計120時間以上の活動をしていればプログラムは

終了となります。毎週末に1週間の活動についてのレポートを提出していましたが、それ以外は学校に行かず、ひたすらボランティア活動をしていました。ボランティア先には日本語が通じる人が1人もおらず、自分にとって毎日大きなチャレンジばかりでしたが、こんな経験は本当に貴重なので、一生懸命色んな人に話しかけて会話を楽しみました。

【生活面】

行くまでは色々な不便を想像していましたが、実施に行ってみると、そこまで不便を感じることはありませんでした。ただ、アメリカ人の食への意識が日本と少し違うところがあり驚きました。食べ物の扱い方(無駄にしない)、食事の仕方などから、アメリカ人は日本人ほど食に重きを置いていないようにおもいました。文化の違いで驚くこともありましたが、「そういうものなのか。」ぐらいの気持ちで受け止めれば、悩んだりすることはなかったです。

【安全面】

ポートランドで気をつけることは、とにかくホームレスの人たちだと思います。別の州から来たアメリカ人も驚くほど、ポートランドにはホームレスが多く、大きな問題のようです。ほとんどの人は何もできませんが、クスリをやっていて行動の予想がつかない人もいるので、行動がおかしい人がいたら、遠回りをしてでも避けて通っていました。

【感想】

留學生活を通して、新しい考えや、やってみたいことがこれまで以上に明確になった気がします。留學で得たスキルを精一杯生かして、自分の意見や考えを自信をもって言える人になりたいです。



この経験を生かして、自分のコンフォートゾーンを抜け出し、自分をより成長させられることに挑戦していきたい。

【学習面】

Fall 1 と 2 は PIE の Program of Intensive English を受講した。初日のテストでレベル分けが行われ、レベル 4 からのスタートとなった。朝 8:50 に最初のクラスが始まり、最後のクラスは 2 時過ぎに終わるスケジュールだった。IUPUI の正規の授業を受けるためには、PIE のレベル 5 を修了する必要があるため、Fall 2 までにレベル 5 を修了し、Spring 1 からは IUPUI の正規の授業を受け始めた。

IUPUI の正規の授業では、Fundamental of Speech Communication、Mass Media and Contemporary Society、Multicultural Education and Global Awareness、Religion and Culture、Yoga を履修した。

【生活面】

Fall の間は、ホームステイをしていた。特に印象に残っているのは、Thanksgiving と Christmas である。Thanksgiving ではホストファミリーの実家に行き、親戚たちと食事を囲んだ。Thanksgiving に向けてスーパーなどの商品が変わっていくのを

見るのも楽しかった。Christmas はただの休日として考えているのではなく、イエスキリストのことをもう一度考え、学びなおす機会だということを知った。

Spring からは International House という学生寮に移った。ここでは世界中から来ている人と知り合うことができ、各国の料理を振る舞い、とても楽しく異文化交流ができた。

授業外では、たくさんのイベントに参加するように心がけて、誘われたら基本的には参加するようにしていた。

【安全面】

夜一人で歩くことができないのはとても不便だった。キャンパスに夜遅くまで残った場合は、寮まで送ってくれるシステムをよく利用していた。ホームステイ中はバス通学していたが、バスの中も治安が必ずしも安全とは言えなかった。

【感想】

この留学を通して、今まで自分がどれだけコンフォートゾーンで生きていたのかを実感した。また、現地の大学生たちをみて、自分よりも自立していて、自分の人生を自分事としてきちんと考えていると感じた。もっと自分中心に物事を考えて、行動したり、プランを立てたりしていいのだということを学んだ。